

# 介護力向上委員会

かもな園取組発表

# 水分量増加でADLを回復させよう！

---

- 水分量を増加させ、意識レベル、覚醒水準を上げる
- 日中の活動量が増え、夜間の安眠につながる
- 水分を摂取することにより、自然排便を促進させる
- 意識レベルが上がることにより、尿意、便意が出てくる

# 水分摂取課題

---

- ①1日の各利用者の水分摂取量の把握ができていない
- ②コップ1杯分の水分量にばらつきがあり、明確な水分量が把握できない
- ③飲み物の種類が少なく、利用者の水分の進みが悪い
- ④昼食時、食事の量が多いので、水分の進みが悪い

# 問題点に対しての対策

---

- ①個別水分摂取表の作成
- ②メモリの付いたコップへの変更
- ③飲み物の種類を増やす。寒天ゼリーの提供
- ④ヨーグルトの提供時間を昼食時から朝食時(起床時)へ変更

※定期的に介護力向上委員会のメンバーで会議を開き、現在の問題点や、今後の課題などの話し合いの場を設けている

# ①個人別水分摂取表

水分摂取チェック表(2階)

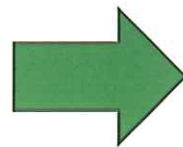
平成 28年 3月 31日

NO	氏名	内容	6	7	朝食	9	10	11	昼食	13	14	おやつ	16	17	夕食	19	20	21	多 計
2710	船戸 毅	水分			200		300		400		100	500			900				100
17	原田 隆志	水分			50		100		200			50			500				50
1031	長尾 英明	水分		200	200		200		200			200		100	200				200

## ②コップの変更

---

以前のコップ



変更後コップ



### ③飲み物の種類

以前はお茶、ジュース類(2, 3種類から)から現在は右の写真にコーヒー、紅茶類など約10種類以上へ増加。



# 取組の途中での問題点

---

①摂取表への記入モレがある

②人手が足りず、水分補給にかかれる職員が少ない

③経管栄養の方の水分量が少ない



## 取り組み途中での問題対策

---

- ①摂取表の記入担当(責任者)を決め記入漏れがない様に努める
- ②業務を調節し、可能な限り水分摂取の時間帯に職員を1名追加、また看護師とも協力し人手不足の解消に努める
- ③医師に相談し経管栄養の方の水分摂取量を可能な範囲で増量する  
(1日約300ml増加)

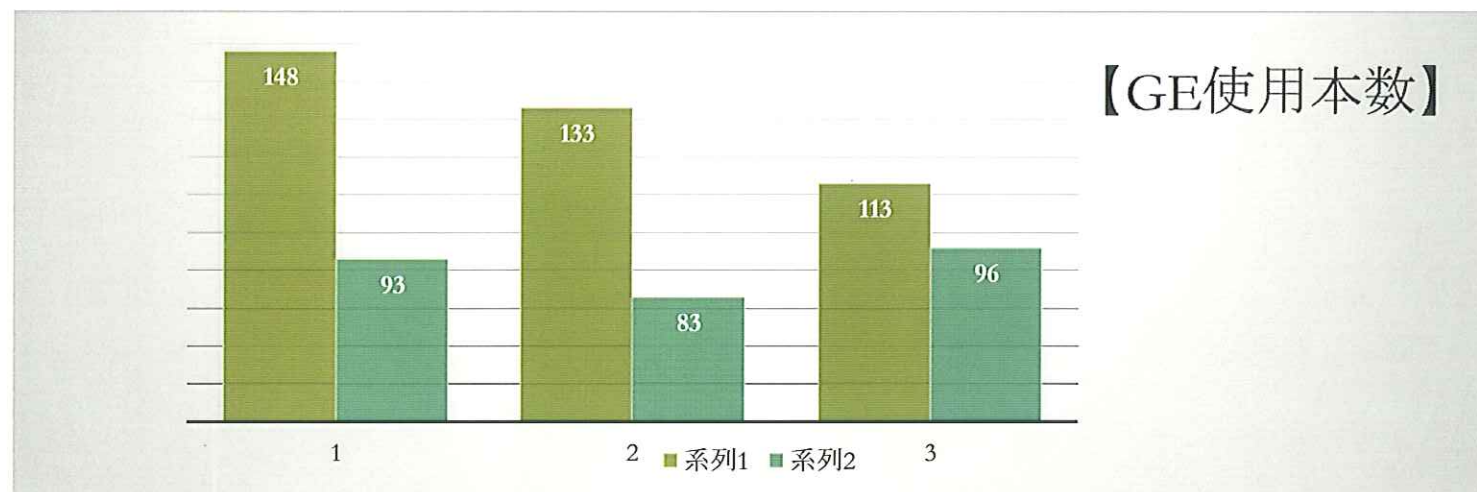
# 水分量増加による効果①

①取組開始時は利用者の平均水分摂取量が730<sup>ml</sup>だったのが、2月末現在では1250<sup>ml</sup>までアップすること成功



## 水分量増加による効果②

②取組以前より、浣腸での排便がかなり少なくなった。



# 水分量増加による効果③

(利用者個人の変化)

---

①利用者Sさんの発語が増え、車椅子を自走がみられる

②発語がほとんどみられなかった利用者Hさんが、歌を口ずさんだり、離床時の傾眠が減少する

③利用者Tさん(経管栄養の方)が、トイレの訴えを言われたり、何かを食べたい等の訴えをするようになった

# 水分量増加でADLを回復させよう！

---

- 水分量を増加させ、意識レベル、覚醒水準を上げる
- 日中の活動量が増え、夜間の安眠につながる
- 水分を摂取することにより、自然排便を促進させる
- 意識レベルが上がることにより、尿意、便意が出てくる